

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0972700413 | | |
| 法人名 | 医療法人 普門院診療所 | | |
| 事業所名 | グループホーム 能羅坊 | | |
| 所在地 | 栃木県芳賀郡益子町益子25番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年12月18日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年3月27日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--|
| 評価機関名 | 社団法人 栃木県社会福祉士会 |
| 所在地 | 宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内) |
| 訪問調査日 | 平成24年1月13日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、里山や農家が散在する自然豊かな場所にあり、母体である医療法人が認知症介護の必要性を感じ、開設したホームである。開設に当たっては、高齢者福祉の先進国スウェーデンから専門家を招いて研修を行ったり、職員をスウェーデンに派遣し、グループホーム運営のノウハウを習得している「他者を自己と平等とみなして個性と尊厳、本人の意思を尊重して本人の立場に立ってサービスを提供すること」を理念に掲げ、職員は明るく、優しい声かけや態度で入居者に接している他、音楽療法も取り入れるなど、入居者の張り合いにもつながっている。また、地域住民を対象に認知症についての講話や運営推進会議の議事録をホームページ上で公開するなど地域に開かれた施設運営に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな雑木林の中、スウェーデン建築の建物が周りの風景ととても良く調和している。仏教の教えによる伝統の理念とスウェーデンの新しい技術をもとに、本人の自己決定を尊重し、寄り添う介護、イメージの介護を実践している。職員はみな、理念を良く理解し実践に努めているが、管理者を中心により良いサービスを求め職員育成にも力を入れている。スウェーデンから直輸入した建物は、断熱や空調、水回りに工夫がなされ、「広く」「綺麗な」「悪臭がない」「暖かい」、生活環境を提供している。居室には、使い慣れた馴染みのものが持ち込まれ、自由にレイアウトされ、思い思いの生活の場を演出している。全ての居室にはトイレとシャワーが完備され、プライバシーにも配慮されている。職員は、言葉使いに注意しながらコミュニケーションに心がけている。地域住民の協力を得て災害訓練も定期的実施されている。重度化や終末期に向けても、同じ法人の診療所や、老健施設の協力を得ながら積極的に取り組んでいる。一人ひとりの尊厳を大切に、生について考えながら介護サービスに当たっているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入居者の個性を大切にし、本人の意思を尊重して、本人の立場に立ってサービスを提供する、の理念のもと、申し送りやミーティングなどで意見交換し、より良いサービスが提供できるよう努力している。 | 「相手の苦しみも自分の苦しみとして捉える智慧、全人的に全てを尊重する」という仏教の教えを理念として介護サービスを提供している。管理者と職員は、日常的な実践活動を通じ、常に意見交換を行い理念の共有に努め、理念に基づいた実践が行われている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の新年会に参加させていただき交流を図っている。土砂災害の避難訓練に多くの地域の方が参加して下さり、協力してもらっている。 | 昨年より、避難訓練には実際に地域の方々に入居者のお部屋まで入って頂き避難誘導に当たってもらっている。その事で入居者と地域の人との新たな交流も生まれており、今後は訓練後入居者と昼食を共にしてもらえるような取り組みも考えている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 法人が医療機関であることを活かし、医師が認知症や健康についての講話を町のホールやホーム等で行い地域貢献に努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 認知症に対してのいろいろな資料をいただくので、全職員に目を通してもらい、意見交換し、サービスの向上に活かしている。又、会議の内容も出席していない職員に報告している。 | 運営推進会議は家族代表、有識者、民生委員、消防署長、町職員、地域包括支援センターの職員などがメンバーとなり二ヶ月に一回開催されている。ホームからの状況報告の他、避難訓練の実施方法や認知症介護の方法について幅広い協議がなされており、結果は全職員にも周知されている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に出席いただき現場の状況や問題点など報告している。 | 町担当者や包括支援センターの職員が運営推進会議に出席し、現場の状況や課題を理解してもらっている。個々の事例等に関する相談や情報交換も行われており、協力体制が築かれている。 | 事業所の持つ社会資源をより一層有効に活用し、介護や認知症に関する勉強会を地域で開催するなど、介護サービスの質の向上に向けて、市町村とのさらなる連携に期待したい。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関は開くと音楽が鳴るようにしてあるため、鳴ればすぐ玄関に行くようにしている。ベッドでのおむつ交換にて、(拒否行動？抵抗？)する入所者がいるが、職員2人で介助したり、言葉かけにより安心してもらうようにする。 | 当事業所の理念に基づき全職員が身体拘束の弊害や虐待防止について良く理解しており、定期的に研修も行われている。職員の工夫やイマジネーションで入居者一人ひとりの状態に応じた拘束しない介護の実践がなされており、共有化もされている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修会で全職員が勉強し理解している。当施設では虐待等ありません。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員個々に勉強し、知識はあるが加えて研修内容に組み入れ理解と活用ができるようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前には見学してもらっている。契約時には家族や利用者には十分説明をし疑問点や不安に思っている事に対し理解と納得を得られるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の面会時の他に毎年の納涼祭の中で家族との意見交換の場を設け、意見・要望をお聞きし、今後のサービス向上に活かしている。入居者にはその都度聞いている。 | 家族の面会時、居室でゆっくりくつろいで頂きながらお話を聞いたり、納涼祭の中で意見交換の場を設けるなどしている。遠方の家族の方とは手紙やメールでやり取りをしている。家族や入居者の意見や要望に耳を傾け、利用者本位の介護サービスに努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 問題が生じた場合など、意見や提案を聞く為、ミーティングを開き、即座に対応できるようにしている。 | 問題が生じた場合、その場でミーティングを開き、意見や提案を聞いている。結果については申し送りして全職員に周知されている。職員会議はないが、二ヶ月に1度の研修会と、全職員が何処かに所属する各種委員会で様々な企画がなされ職員の意見や提案が反映されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員個々の努力、実績、勤務態度を把握し、給与等に反映させている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 同一法人の介護老人保健施設と共に年間計画を立て、職員の勉強会を毎月行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 見学は受け入れているが、他ホームとの交流・ネットワーク作りには取り組んでいない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 見学時には、本人にも来ていただくようしている。入居時には、よく本人や家族の方から話を聞き、安心して生活していけるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 認知症の発症時期、症状等を詳しく聞き、不安を受け止められるよう努力している。希望なども聞き、なるべく希望通りに出きるよう心がけている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 現在の状況を詳しく聞き、グループホームでの生活が最善か見極めるよう努力している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食事やレクリエーション以外は自室で過ごす入居者がいるが、時間があれば訪室し、コミュニケーションをとるようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時には、最近の様子など報告をするようにしている。又、遠方の家族の方には電話やメールにて報告するようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 手紙や電話でのやりとりを支援している。 | 馴染みの人たちも高齢化しており関係を継続することは難しくなっているが、同じ法人の通所リハに通う馴染みの人に会いに行ったり、家族の協力を得て墓参などを行っている。自分の生家に帰りたいという認知症の入居者の方と一緒に生家を探しにドライブする等の支援も行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 共同生活を楽しめるよう常に目をくばり、孤立してしまっている時は、職員が声かけなどし間に入っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 今までは、退居後の継続的な関係を望む家族や利用者はいなかったが、希望があれば断ちきれない付き合いをしていきたい。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 希望は必ず聞くようにしている。できるだけ希望通りに生活していけるよう努力している。 | 言葉のキャッチボールを行い、優しく話しかける事で本人の意向や希望の把握に努めている。意思表示の困難な入居者には職員のイメージーションを高め、本人の自己決定を尊重支援するように努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時又は面会時に本人の生活歴や職歴、趣味など聞き取りしている。聞ける場合は本人との会話で聞いている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の申し送りや介護記録などで現状を把握するよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアカンファレンスを聞き、アイデアを出し合い、より良い介護計画になるよう努力している。必要に応じ、家族に参加してもらっている。 | ケアマネジャーが中心となり、ケアカンファレンスを開き、職員や医療機関の意見を聞きながら、本人本位の介護計画の作成に努めている。作成に当たっては家族の意見も取り入れ、必要に応じて家族にも参加してもらっている。定期的な見直し、随時の見直しも行われている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録等に記入することにより、情報の共有が図れている。介護計画の見直しにも記録を見ることにより活かされている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ある利用者に既存のサービス外のニーズがあったが、当人とその家族と話し合い、合意のもとそのサービスを行う事ができた。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ボランティアの受け入れを行っている。運営推進会議にもいろいろな方面の方が参加していただき、助言をいただいている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 経営母体が診療所のため、密に連絡を取り合い対応している。診療科目以外の時は、家族に連絡を取り他病院にて治療を受けている。 | 経営母体が診療所のため、月に一回の検診や日常的な連携の中で手厚い医療が受けられる体制になっているが、本人の希望を大切にして家族の支援を受けながらかかりつけ医や本人が望む病院への受診も行っている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 気づいた事などすぐ報告し、指示を貰うことができているので、安心して対応することができる。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 法人の診療所に入院となるので、洗濯物を取りに行きながら看護職員に様子を聞いたりし、情報交換している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族の方には、管理者(医師)から話をしてもらい、早い段階から方針を決めている。終末期の支援についての勉強会を行っている。 | 管理者はターミナルケアをライフワークとしている医師であり、早い段階から本人や家族と話し合い終末期の支援について方針を決めている。実際にホームで看取りを行った経験もある。本体の診療所や老健施設と連携し、支援が受けられる体制作りがなされている。定期的に勉強会もなされており、職員に過度の負担がかからないよう配慮もなされている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 研修に参加し、勉強している。実際に自己発生した場合、落ち着いて対応するよう心がけている。連絡方法も見やすい所に貼ってある。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災避難訓練は年2回(昼、夜想定)実施している。土砂災害訓練では、地域の方にも協力を得て毎年実施している。それ以外に自主訓練も行っている。 | 運営推進会議には地元の消防所長にも参加してもらい、災害対策についての助言を受けている。土砂災害訓練では地域の方に参加してもらい入居者の避難誘導にも関わってもらっている。3.11震災の体験を踏まえ全職員が訓練の大切さを実感している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常に言葉遣いに注意しながら接している。『同意し、否定せず』を忘れずに対応している。 | 「どうですか」と相手の気持ちになって話しかける。コミュニケーションとスキンシップに心がけている。人生の先輩としての尊敬の念を忘れず、馴れ馴れしくならないよう言葉使いには気をつけている。入浴介助や排泄介助にはプライバシーにも配慮がなされている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 会話や行動の中で、本人の想いを感じとれるよう努力している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースは大切にしている。なるべく本人の希望通りに生活を援助しているが、希望通りに行かない場合もある。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 理容は、ホームで行うことができるため、本人の希望を取り入れ定期的にかかっている。季節・目的に合わせて、本人なりのおしゃれができるよう支援している。ホーム外の理容室を希望された場合は、お連れしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 現在、食事の準備を一緒に行う事は困難であるが、食器運びをテーブル拭きなどの片付けは一緒に行っている。言葉かけをしながら食事を楽しんでもらえるよう支援している。 | 朝食はホームで職員が調理しているが、昼食と夕食は法人内の事業所で調理された物を配膳している。行事食や季節感のある食材、地元の食材などが提供されている。静かな音楽が流れ、職員も一緒に同じものを食べながら落ち着いた雰囲気の中で食事を楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分不足にならないよう食事やおやつ時には言葉かけをし、補給を促している。栄養が偏らないよう注意している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 言葉かけを行い、口腔ケアを実施している。歯科医の往診があり、必要時には利用できる。本人の希望で他歯科へお連れしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | オムツ使用者でも尿・便意の訴えがある時は、トイレ誘導し排泄できるよう援助している。 | 職員は一人ひとりの排泄パターンを理解し、機械的にならないトイレ誘導に心がけている。おむつ交換も、耳元で優しく声かけがなされた上で行われている。全ての居室にトイレとシャワーが完備されており、排泄を失敗してしまった場合にもプライバシーに対する配慮がなされている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 乳製品など摂取してもらったり、体操に参加してもらっている。それでも排便がみられない時は、内服薬や坐薬にて対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | 希望により毎日入浴される方もいるが、体調を見ながら週2～3回、職員が1対1で入浴を支援している。浴槽は、猫足の西洋風で高さがあるが、補助具等を使用し安全に配慮している。各居室にもシャワーがついており、いつでもシャワー浴ができるようになっている。 | 猫足の西洋風のバスタブは入居者にも好評で洗い場と一体となった浴室は広く機能的でもある。入浴を拒否的な入居者には声かけにより入浴誘導がなされている。基本1対1の入浴支援であるが介護度の高い方には2人体制の支援が行われている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人の主張を尊重し、言葉かけを行い居室へ誘導している。又、不安を取り除き安心して休むことができるよう話を傾聴したり、言葉かけを行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服をする時は、職員同志確認し合い内服してもらっている。飲み込むまで確認している。変化については医師に報告して指示を浮けている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 折り紙、日記書きなど利用者一人ひとりの習慣、楽しみごとを把握し、その行いができるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ドライブに出かけ、季節の景色を楽しめるよう支援している。家族の方にも、外出・外泊の言葉かけをしている。 | 日常的には、気分転換のため自由に外に出られるようになっており、必要に応じて職員が付きそっている。時々、季節の風景を楽しむドライブや個々の入居者の希望による馴染みの場所への外出支援も行われている。 | 入居者の高齢化により、少しずつ外出機会が減っているようであるが、買い物や外食等を含む外出機会を、入居者の状態に配慮しながら実現できるような取り組みに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在、お金を所持している利用者がいる。また、預かり金として管理もしており、利用者の希望した時など家族の同意を得て購入している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は希望されれば自由に使用できる。難聴のため、聞き取りにくい場合は職員が代わりに事づてを聞いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に合わせた物を飾ったり、花を置いたりして目でも楽しんでもらっている。 | スウェーデン建築のホームは、断熱、空調、水回りに優れ、採光、室温、臭気に配慮された建物になっている。玄関を入った高い吹き抜け、広い廊下やリビングはゆったりくつろげる生活空間を作り出している。玄関には季節の花がつけられ、廊下には等間隔に絵画が飾られている。余分な掲示物が無く、落ち着いた家庭的な雰囲気が感じられる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 仲の良い入居者同志、ソファやテーブルに座り、談話を楽しんでいる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室が広くとられており、本人の使い慣れた家具などが持ち込め、安心して過ごせるよう配慮している。各居室にシャワーもついており、いつでもシャワー浴ができるようになっている。 | 個室は、広くゆとりとしており、各部屋にトイレ、シャワーが完備されている。本人の使い慣れた家具や品物が持ち込まれ、思い思いのレイアウトで居室作りを楽しんでいる。入り口には、手作りの益子焼の表札が飾られている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 不安にならないよう、なるべく職員がリビングにいるよう心がけている。個々に合わせ、できる手伝いをしてもらっている。 | | |